



# 夜な夜な短歌集

2015年 冬号

# 夜な夜な短歌人紹介



雪



日野成美



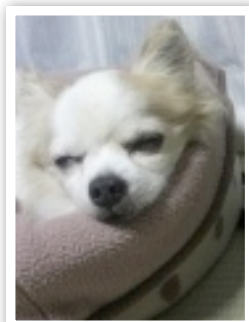
七色一味



新地学



June



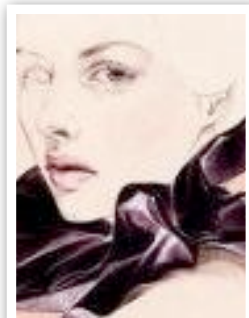
華



Sage



masa



せんむ

# 夜な夜な短歌人紹介



seri



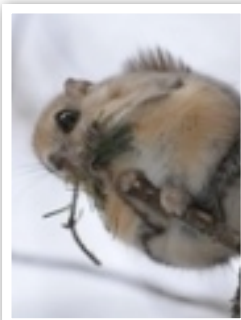
nonたん



ちゃありい



レイ



momonga



静まりかえる冬の景色  
その静謐な世界とはうらはらに、どこかで  
僕らは情熱の欠片をばらまいている  
だから、この季節は恋も愛も熱を帯びたまま  
なのかもしれない・・・



『夜な夜な短歌集』も冬号をお届けする季節となりました。冬は静かなようで実はそうでもないですね。クリスマス、大晦日、お正月、バレンタイン…。イベントに事欠かない季節だなんて思います。今回もテーマを設定しています。冬号のテーマは、「新」「白」「温もり」「バレンタイン」の4つです。あなたは今どこでこの歌集を読んでいますか？家で、それともカフェで、もしかしたら職場で…。大切な人、大切な場所を思い浮かべながら、ここにある短歌たちを読んでいただけたらと思っと思っています。

# 雪の短歌

こわれたり冷めないように柔らかな羽毛でくるんで保管したい恋

ふいに胸のおくに感じるあたたかさあなたが想ってくれてるのかな

向けられる笑顔を見るたび心がね春の陽射しにつつまれふわり

# 日野成美の短歌

雪の中つめたいわたしを抱きしめてあたたかいと言う人募集です

待ってますいびつなハートのチョコ抱えブランココいで待ってますから

ページ 6

舞いおりてやさしく音を抱きしめるわたしは雪の精といます

# 七色一味の短歌

左手の裏と表の白いNキミのイニシャル肌に馴染ます

固まった根雪の上の新雪が崩れる威力でボクは恋した

朝封を切ったカイ口にとどまった温みのような、そんな関係

# 新地学の短歌

雪だるま共に作ったあの冬に初めて恋のときめき知った

歌うたう真っ白な雪思いつつ清らかなもの心に満ちて

口笛でたきびを奏で寒がりの君の所へ今送りたい



# Juneの短歌

見守っていてねと手をあわせれば空にお花がはんなりと会釈

コ―ヒ―をお前ものむかとそちらの部屋からふと出てきそうな日です

声に出さずに呼んでみる写真の中で小さい我が子を抱く父を

# 華の短歌

コール音 オレンジの街 キムチ鍋 きみが這い出たベッドのくぼみ

毎日をきちんと生きていますけど肌が触れ合うことすらなくて

上空五千メートルからあなたの手に触れ二秒 わたし溶けるの

# Sageの短歌

新月の夜の気配が染みわたり肌感覚が鋭敏になる

空を斬る飛行機雲も白組にエールを送る子の運動会

甘いのは苦手だからという君がずっと差し出す剥き出しのチョコ

# masaの短歌

ゼロになる新しい幕が開かれる光とともに息吹きとともに

染まりゆく木々も土も染まりゆく純白のなか二人は永遠に

ふれてみる温もりが頬を伝わってたったひとり君に気がついた

# せんむの短歌

荒ぶれて岩越す波をものとせず  
飛沫と風と遊ぶ鷗よ

差し向かい炬燵でおでんと熱燗と  
君の頬みて美朱に酔う僕

この日ほど貴方に素直になれなくて  
2・14はエイプリル・フール

# seriの短歌

小さくも深き心の隙間には温もり求め徒花が咲く

寒そうな空が零した薄片に淡く震える白き花びら

隠すのが上手くなつた強がりを目指から暴くやさしい温度

# non たんの短歌

古ぼけた社をてらす夜の月昨日と違う今日の始まり

朝の陽に燦めく空が降ってくる白煙あげて機関車走る

やわ肌はふわふわ包むきみ眠るその手に握るキラキラの夢

# ちやありいの短歌

雪が降る寒さだこれはとねじ込んできたポケットの中での祈り

雪の絨毯を背にして並び撮る溶けていく日は無いと信じて

巡る冬 変わらないまま記念日の暗証番号だけがあの頃



# レイの短歌

義理の中ひとつ目を引く高級チョコ妻のわたしに宣戦布告

ありがとうと今年も義理チョコ感謝されそこまで出かけた好きを飲み込む

チョコフォンデュ次は何にいきますか？あなたが差した指はわたしに

# momongaの短歌

焦る手の熱がチョコまで届きそう一分だけでも一人になって

箱買いのチョコには実はひとつだけ特大ハートを忍ばせてます

援護して泣き出しそうな親友にホントは牽制されたただけだ

# 番外編・忘年会の短歌

この歳で一期百会と願いたい友と集いし東京駅に  
nonたん

2  
3  
時見慣れた八重洲ビル街を濡らす雪にもお別れをして  
momonga

1  
0  
0  
年の記念Suicaに殺到す徹夜許さず暴動起きず  
Sage

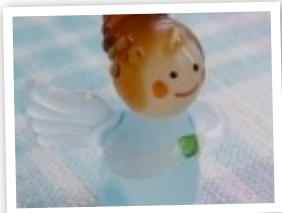
# 番外編・忘年会の短歌

君が待ったただそれだけでこの駅は光始めてミチテラスとなる  
s e r i

ホームにて夜行列車を待つ吾を見守るように懐かしんでいる  
m a s a

冬めいた通りを飾るイルミネーションぬけたら広がるステーション  
J u n e

# 短歌人からひとこと



## 雪さん

夜な夜な短歌集に参加させていただくのも4回目となります。今回はなかなか歌が生まれず苦心しましたが、なんとか詠むことができました。「温もり」をテーマにした三首、楽しんでいただけると嬉しいです。

## 日野成美さん

今回も夜な夜な短歌集にお誘いいただいたことを、とても光栄に思います。雪国住まいではないのですが、雪のうたが多くなりました。バレンタインのうたは実話です。お読みになった貴方の心に、雪とせつなさが降ってくれますように。



## 七色一味さん

付け焼き刃のりハビリの結果の作品なので、クオリティ的にイマイチ…。趣味レベルと軽く流して、次行ってください（汗）



## 新地学さん

冬は好きな季節です。いろいろなものに詩情を感じます。特に雪を見ていると、短歌を詠みたくなります。寒い日が続くのですが、寒いと人恋しくなって、それがまた短歌を詠むきっかけになるような気がします。今回も参加させていただき、有難うございました。



## Juneさん

春夏秋冬と参加させていただきありがとうございました。歌を詠むこと、歌を通して皆様と交流させていただくことにとっても癒されています。



# 短歌人からひとこと

## 華さん

季節を一巡り、参加することができました。今回は「温もり」3首。何かしら心をざわざわさせられたら嬉しいです。皆さん、いつもありがとうございます！



## Sageさん

短歌に出会い、季節の移ろいを日常に感じるようになりました。秋の夕暮れから、あっという間に冬が来て、年が変わり春を迎えようとする季節です。バレンタインに想いを乗せてまっ白で新しい温もりをそれぞれのうたに感じていただければうれしいです。  
太田青磁 短歌人会所属



## masa

あっという間に夜な短歌集が第4号を迎えることになるとは…。これもみんな詠んでくれる人と、読んでくれる人がいるおかげです。みなさんいつもありがとうございます。



## せんむさん

また、こちらに参加させて頂く事ができました。久しぶりに詠いましたが、何かを感じて頂けたら幸いです。



## seriさん

溢れすぎた色をリセットしていくように、色をなくしていく街並み。ゆっくりと透明になっていくような冬。そんな風に一年をゆっくり更新していきたいと思いつつも、心の隙間に徒花を育て

日々です。いつか大きな実の成る日を夢見つつ。



# 短歌人からひとこと



## nonたんさん

今回は「新」「白」「温もり」を感じられたらと思って作りました。

そんなふうに読めるかな？

新しい年も精進します。

## ちゃありいさん

冬号も参加させていただいて大変嬉しく思います。テーマは「白」で三首作りました。四季の中でいちばん恋愛の歌が映えるのが、僕は冬だと思う。少し寂しくもあるけど、冷んやりとした中に感じる温もりが、どんな燃え盛る熱よりも暖かいような気がして。



## レイさん

バレンタインのあるあるを三首詠んでみました。

最後の歌は願望です(爆)

## momongaさん

夜な夜な短歌集は、読書メーターの多くの皆様に読んでもらえるかと思うと気合いが入ります！今回はお題の中から、バレンタインで3首詠みました。少しでも甘みやほろ苦さを感じてもらえたら本望です。



※夜な夜な短歌集は、夜な夜な短歌コミュの有志メンバーが集って作成した季刊歌集となります。

※ 当歌集に掲載されている文章・画像等の無断転載はご遠慮下さい。  
使用する際は、事前に確認していただくようお願いします。

# 既刊歌集の紹介



## 夜な夜な短歌集・既刊号について

『夜な夜な短歌集』は、今回で4号目の発刊となります。2014年の春号から有志メンバーによってはじまったこの企画。もともとは、夜短歌をつぶやくという遊び心からはじまったものでした。それが、いつしか季節ごとに歌集をつくるという企画に変わり現代に至っています。すでに、春・夏・秋と3号発刊しています。まだ読まれていない方は、既刊号も是非お読みになってください。

## 既刊号を読みたい方へ

2014年春・夏・秋号を読みたいという方は、右記リンクよりチェックしてみてください。感想もひとことでも書いてくださると、短歌人のみんなも喜びます。

[\\*夜な夜な短歌集 2014年春号をみる](#)

[\\*2014年春号 読書メーターのページ](#)

[\\*夜な夜な短歌集 2014年夏号をみる](#)

[\\*2014年夏号 読書メーターのページ](#)

[\\*夜な夜な短歌集 2014年秋号をみる](#)

[\\*2014年秋号 読書メーターのページ](#)



# 編集後記&コミュ紹介



## 編集後記

歌集に参加しているメンバーを見ていると、継続は力なりという言葉が真実だということがわかります。詠めば詠むほど、メキメキ力を伸ばしているみんながスゴイなと思ったり、まぶしいなと思ったりしてしまうんですね。冬号の短歌も編集しながら、感嘆の吐息が思わずでしてしまうほど…。今回は、番外編として、「東京駅」をテーマに詠んだ忘年会の短歌も収録しています。春・夏・秋・冬と号を重ねて一年が経過しました。このまま同じように積み重ねてもよいかとも考えたのですが、今号をひと区切りにしようと思います。次号以降は、また形を変えて夜な短歌集をお届けする予定です。冬号も読んでくださりありがとうございます。masa@コミュ管理人

## 夜な夜な短歌コミュについて

『夜な夜な短歌コミュ』とは、読書メーターにあるコミュニティです。短歌が好き、短歌を詠みたいというメンバーが集まって日々交流をしています。みなさんも良かったら一緒に短歌を作ってみませんか？コミュはこちらになります。

[\\*夜な夜な短歌コミュをみる](#)

